

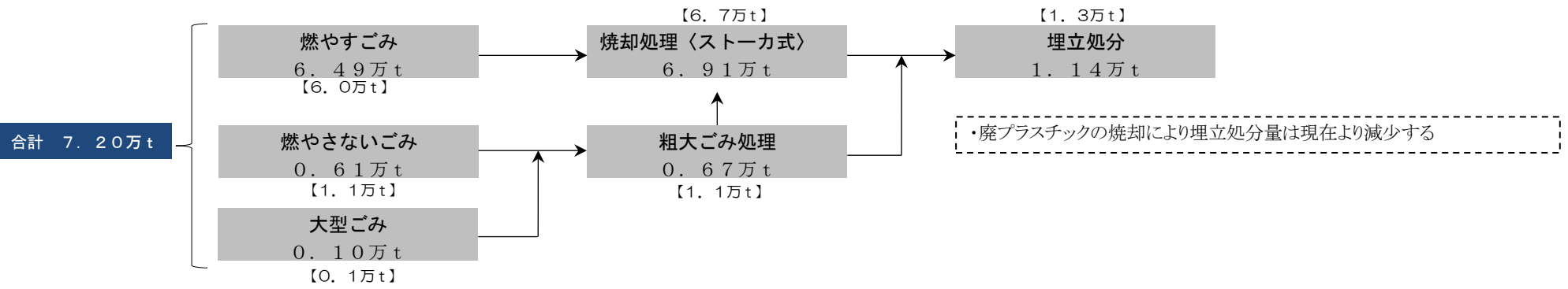
今後のごみ処理の検討

※ 廃プラスチックをリサイクルする可能性もあるが、現時点では詳細が不明のため、
廃プラスチック全量を焼却（または溶融）処理する場合のイメージ。
⇒ すべてのケースにおいて廃プラスチック燃焼分の二酸化炭素排出量が増加

ケース 1 : ストーカ式

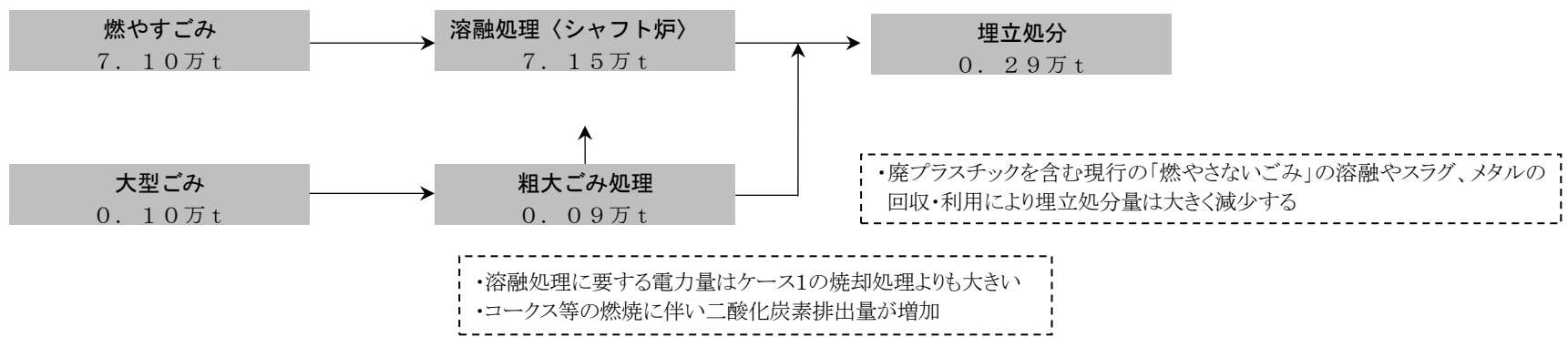
- ・現行と同様に「燃やすごみ」をストーカ式焼却炉により焼却処理する
- ・廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行

【 】は現行（ストーカ式・廃プラスチックは埋立処分）の数値



ケース 2 : シャフト炉式

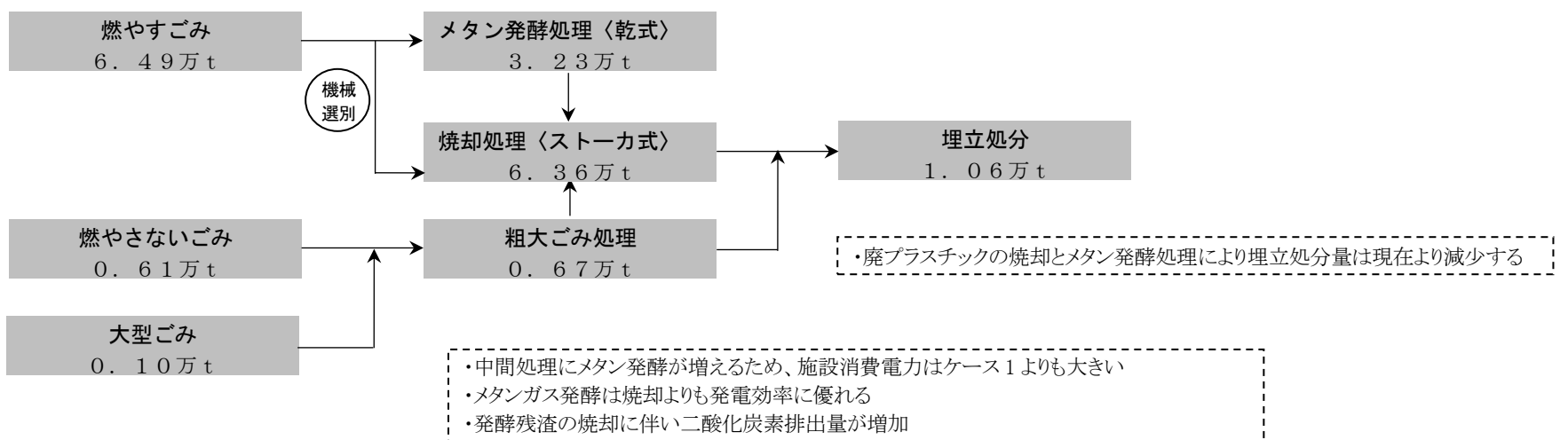
- ・「燃やすごみ」をガス化溶融/シャフト炉式で溶融処理する
- ・廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行
- ・炉の方式としては現行の「燃やさないごみ」を「燃やすごみ」に移行することができる



ケース 3 : ストーカ式+メタン発酵（乾式）

生ごみが 100%機械選別できる場合

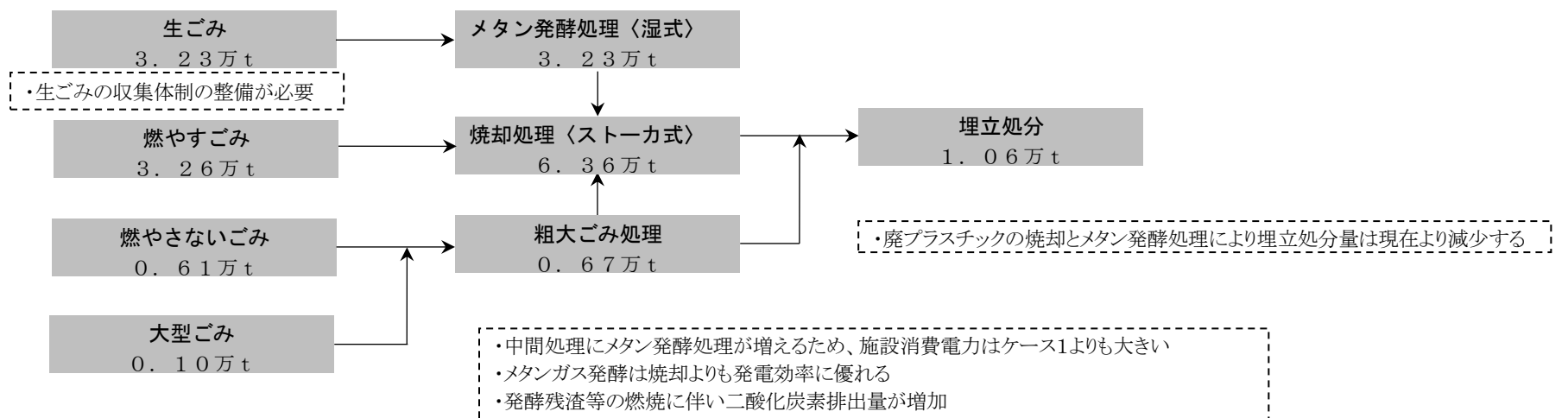
- ・メタン発酵処理する「生ごみ」は「燃やすごみ」として収集し、施設において機械選別
- ・廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行
- ・メタン発酵残渣は焼却処理（※堆肥化することも可能であるが、本検討では焼却処理するものとする）



ケース 4 : ストーカ式+メタン発酵（湿式）

生ごみが 100%分別排出される場合

- ・メタン発酵処理する「生ごみ」は「燃やすごみ」と分別排出
- ・廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行
- ・メタン発酵残渣は焼却処理（※堆肥化することも可能であるが、本検討では焼却処理するものとする）



ケースごとの現行（ストーカ式・廃プラスチックは埋立処分）との比較

	ケース 1 (ストーカ式)	ケース 2 (シャフト炉式)	ケース 3 (ストーカ式+ メタン〈乾式〉)	ケース 4 (ストーカ式+ メタン〈湿式〉)	比較結果 (左から評価が高い順)
住民の分別負担	→	→	→	↑	現行 = ケース 1 = ケース 2 = ケース 3 < ケース 4
最終処分量	↘	↓	↘	↘	ケース 2 < ケース 3 = ケース 4 < ケース 1 < 現行
二酸化炭素排出量	↗	↑	↗	↗	現行 < ケース 1 = ケース 3 = ケース 4 < ケース 2

注 メーカー・機種によって異なるため、最終処分量及び二酸化炭素排出量の詳細な検討が必要